

2025（令和7）年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1490600507	事業の開始年月日	平成30年12月1日
		指定年月日	令和6年12月1日
法人名	湘南乃えん株式会社		
事業所名	天王町グループホームえん		
所在地	( 240-0004 ) 横浜市保土ヶ谷区岩間町1-8-12 シーコムビル		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名 ユニット数 2 ユニット
自己評価作成日	令和8年1月12日	評価結果 市町村受理日	令和8年5月19日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ご入居者自身でできることは、積極的に行ってもらい、ご入居者各々にスポットライトがあたるように、かつ活躍できるように私たち職員はサポートすることを心がけています。天王町駅から近い所にあるため、来所し易く、また自然にも囲まれているので、気軽に自然に触れ合うこともできます。今後も地域との交流を深め、地域の一員として担い、困った時はいつでも頼られる施設になるように努めています。

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和8年1月22日	評価機関 評価決定日	令和8年4月17日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は相鉄線「天王町」駅から徒歩4分、またはJR横須賀線「保土ヶ谷」駅から徒歩7分の場所にあります。周辺には公園、郵便局、コンビニエンスストアがあり、建物の裏手には小さな川が流れています。

<優れている点>

管理者は事業所理念や行動指針である5つの「えん」を大切にして、日々の支援にあたっています。地域との「縁」を大切に考え、交流を通じて事業所の活動を知ってもらいたいという願いから、以前からの公園掃除に加え、地域の防災訓練や運動会にも積極的に参加するなど、地域との繋がりに努めています。運営推進会議については、家族が参加しやすい日時への調整や会場の確保を丁寧に行うことで、毎回3、4家族の参加を得るなど関係性の維持につなげています。また、外国籍の職員による母国の料理提供の提案があった際には、利用者と共に調理を楽しむ形を整え、温かく家庭的な雰囲気である「円」の実現を図っています。

<工夫点>

ギターを習いたいという利用者の意向に沿い、地域のギター教室に通えるよう支援しています。クリスマス会でその成果を披露する場を設けるなど、本人だけでなく周囲の利用者も共に楽しめる機会づくりに取り組んでいます。また、食事の準備においては、職員が見守る中で利用者が各自の能力に応じた役割を分担しています。食材のカットや調理、盛り付け、テーブル拭きなどを通じて、一人ひとりが役割を持ち、食事の時間を豊かに過ごせるよう工夫を重ねています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	天王町グループホームえん
ユニット名	4F

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者の <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいの <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいの <input type="checkbox"/> 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="checkbox"/> 1, 毎日ある <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまにある <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族と <input type="checkbox"/> 2, 家族の2/3くらいと <input type="checkbox"/> 3, 家族の1/3くらいと <input type="checkbox"/> 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念を掲示し、会議や研修や面談を通して共有し実践している	法人理念と行動指針である5つの「えん」を職員に浸透させるため、これを事業所理念として掲げています。会議や研修、日々の会話など、あらゆる機会を捉えて周知と浸透を図ることに努めています。外国籍の職員においても、習得中の日本語を用いたコミュニケーションを通じて利用者との「縁」を結び、理念の一つである「援」としての支援を実践するなど、具現化に向けた取り組みを継続しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	早朝の公園掃除や、防災訓練や運動会などにも参加している	管理者は地域とのつながりを深め、事業所の活動を周知したいという願いから、以前より継続している公園掃除に加え、昨年からは地域の防災訓練や運動会にも参加するなど、地域交流の活性化に努めています。また、ギターを習いたいという利用者の意向を大切にし、地域のギター教室に通えるよう支援しています。地域資源を活用することで、利用者が社会との関わりを持ち続けられるよう取り組んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	問い合わせや見学等で介護の相談を受けた際に、認知症についてなどを説明している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	今年は自治会長や包括だけでなく、ご家族やご入居者、他施設の管理者等が参加して意見を頂き、改善できることはその都度対応している。	感染症流行の影響で参加が減っていた家族に再度参加してもらいたいと考え、参加しやすい日時の設定や人数に応じた広い会場の確保に努めています。その結果、毎回3、4家族の参加を得るなど、顔の見える関係性の維持に繋げています。会議では、家族から夜間の常夜灯設置に関する要望を受けたほか、町内会からは防災訓練参加に対する謝辞を受け取り、地域包括支援センター職員からは地域情報の提供を収集するなど、多角的な意見交換の場として活用しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	生活保護の方の生活支援面での相談を小まめに行いながら進めている	地域包括支援センター職員より、地域の認知症カフェや行事に関する情報の提供を受けています。また、生活保護を受給している利用者が数名おり、紙おむつ費用の給付等について自治体へ相談を行うなど、必要な支援の確保に努めています。区の高齢・障害支援課のケースワーカーからは、生活保護受給者の入居に関する相談を受けるなど、行政機関との円滑な連携を図っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	毎月のケアカンファレンスの中で身体拘束にならないか、また抜き打ちで防犯カメラを活用して確認している。また、研修を通して学んでいる	年2回の内部研修や年4回の身体拘束適正化委員会の活動を通じ、拘束を行わない支援への意識向上を図っています。管理者は、日々の相談がしやすい環境づくりが身体拘束をしない支援につながると考え、職員との対話を大切にしています。具体的な事例検討においては、例えば車いすから反り返ることによる転倒の可能性がある際、車いすを固定して動きを制限するのではなく、安定した椅子へ移乗する支援を選択するよう指導するなど、個別の状況に応じた適切な対応に努めています。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	毎月のケアカンファレンスの中で高齢者虐待にならないか、また抜き打ちで防犯カメラを活用して確認している。また、研修を通して学んでいる	年2回の内部研修や年4回の虐待防止委員会の活動を通じ、虐待を防止する支援への意識向上を図っています。管理者は、備品や用具の配置を統一して職員が動きやすい環境を整えることで、業務上の負担軽減や精神的なゆとりにつなげるよう努めています。また、感情の波が生じた際には一呼吸置いてから接するアンガーマネジメントの手法を指導するなど、職員が落ち着いて利用者に関わることができる体制づくりに取り組んでいます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	主に管理者は把握し必要性がある場合は話し合いも行っているが、各職員までは理解に至っていない。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	見学时及び契約時に説明を行っており納得して頂いている。			
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	職員に意見・要望が伝えられた時は管理者およびCMに報告している。面会時のコミュニケーションを大切に、意見を言いやすい関係づくりを意識している。	家族の意向については、運営推進会議や面会の機会を通じて把握に努めています。面会のために来所した家族には声かけを行い、利用者の日々の様子を共有することで、家族が相談しやすい雰囲気づくりを心がけています。毎月、利用者の生活状況を記した文書に写真を添えて家族へ送付しており、家族からは「もっと写真を増やしてほしい」「いつ撮った写真か分かるようにしてほしい」といった要望を吸い上げるなど、意見を取り入れながら交流の充実につなげています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	会議や定期的に面談を行い、意見を聞くようにしている。	職員の意見や提案については、会議のほか日々の対話や面談を通じて把握に努めています。外国籍の職員から母国の料理を提供したいとの提案があった際には、その意向を尊重しつつ、利用者主体の共同生活の場として「できることは自身で行う」という基本方針を共有しました。利用者も一緒に調理に加わってもらう形を提案するなど、職員の柔軟な発想を活かしながら、理念に基づいたケアの充実に向けた話し合いを行っています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	評価する基準があり、給与算定される仕組みがる。向上心への評価もありやりがいにつながっている	勤務体制の編成においては、外国籍の職員による年末年始の帰国希望を受け入れるなど、一人ひとりの要望に沿えるよう調整に努めています。管理者は、備品や用具の配置を統一することで、職員が円滑に動くことができる職場環境の整備に取り組んでいます。また、互いに返事を行うことがコミュニケーションの基本であると伝え、風通しの良い職場づくりに向けた助言を行うなど、職員が気持ちよく働ける体制の維持を図っています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修の機会は設けているが、人手不足等もあり実際は一部の職員しかできていない。	法定資格の取得に向けて、法人による費用の補助や受講時間の確保など、資格取得を後押しする支援体制を整えています。新入職員の育成においては、マンツーマンでの指導を通じて着実な習得を図っています。また、外国籍の技能実習生に対しては、分かりやすい言葉を選んで説明を行い、時間をかけて丁寧に育成していく方針を掲げています。個々の習熟度や状況に合わせた柔軟な教育の実践により、専門性の向上に取り組んでいます。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	連絡会や運営推進会議にて同業者の情報共有を行っている		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用する前の情報収集や面談を密に行い、安心と信頼関係作りに努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	アセスメント等を行う際、本人の要望を聞いた後、家族の要望も聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	見学時に詳しく話を聴いてその方にとってどのサービスが最適化かをアドバイスしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	あくまで職員は入居者主体で共同生活をするうえで、できないことを支援し、助け合って生活できるように務めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族と一緒にここでのケアを支えている気持ちで相談援助を行っている		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	場所が変わっても、いつでも来てもらえるように、またいつでも連絡が取れるように努めている。 面会も受け入れている。	馴染みの関係については、入居時のアセスメントや入居後の会話などを通じて把握に努めています。友人との交流が継続できるよう面会の機会を大切にしており、中には友人が花を携えて来訪し、共に過ごす時間を楽しむ利用者もいます。また、電話でのやり取りや家族との外食、墓参りなど、住み慣れた地域や人とのつながりを維持するための支援を行っています。昔の写真を見ながら思い出を語り合う機会を設けるほか、散歩中に近隣住民と挨拶を交わすなど、社会との関わりを継続できるようにしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	職員が間に入って、コミュニケーションが取れる環境（席の異動等）を作るようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	終了したから関係を断つのではなく、いつでも相談や支援ができるように努めている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメント時や、関わった際に何気ない言葉も記録に残すようにし、会議等で情報共有し、意向に添えるように検討する。	利用者の日々の生活の中で聞き取った思いや意向は、職員間で共有し支援につなげています。「ベトナム語を学びたい」との意向があった際には、その思いを尊重し、利用者がアプリで学びながら外国籍の職員に教えを乞い、挨拶や会話を交わす姿を見守っています。また、言葉で思いを表すことが困難な利用者については、仕草や表情の細かな変化を見逃さないよう努めています。日々の関わりの中で得た気づきを検討し、個々の意向を汲み取った支援となるよう心がけています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	散歩や入浴時や夜間など1対1になれるとき等にこれまでの暮らしを聞いたら記録し情報共有するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	アセスメントやモニタリング、また日々の様子を記録し皆で情報共有できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	アセスメントしてからケアプランを作成し本人や家族の同意を得てから実行し、モニタリング時に本人やご家族の意見を聞いてプランを作り直すようにしている。	月に1度ケアカンファレンスを開催し、モニタリングを通じて利用者の状態変化を確認しています。変化を捉えた場合には随時ケアプランの見直しを行い、常に現状に即した支援ができるよう努めています。計画の策定にあたっては、家族の意見や「ギターを弾きたい」といった本人の意向を反映し、具体的な目標を設定しています。多職種によるチームで情報を共有しながら、一人ひとりの思いに沿ったケアの実践に取り組んでいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	気づきや変化があったときはケア記録に書き、口頭での申し送りや、カンファレンス時に情報共有するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	一人で検討するのではなく、多職種からのアドバイスをもらったり他の職員の意見も参考にし、柔軟に取り組めるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	常に地域資源があるかどうかを頭にいれて、ニーズに合うか検討するようにしている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人とご家族には選択肢をあたえて、本人達に選んでもらえるようにしている。また、あまりいい関係が得られない場合は、すぐに変えられるように努めている。	医療連携については、月2回、協力医療機関の内科医を受診するほか、本人や家族が希望する訪問診療医を選択できるように体制を整えています。歯科についても必要に応じて訪問診療を利用するなど、健康維持に努めています。眼科などの専門医への受診が必要な際は、家族や職員が同行し適切な医療へつなぐよう支援しています。また、週1回は看護師が来訪して健康観察を行っており、日頃から体調の変化を早期に把握し、医療へつなげる体制の維持に努めています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護ステーションには、一週間の様子を伝えると同時に、気になる部分は相談できるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、病院側と情報共有するようにしている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に話をしているが、またその時を迎えた時に医師と看護師、職員、本人、ご家族で今後の方針を検討するようにしている。	入居契約の際に「急性期・重度化・終末期ケア対応に関する指針」に基づき、家族などへ説明を行い同意を得ています。医師が終末期と診断した際は、医療処置の範囲について家族などと再確認を行い、方針の検討に努めています。本人の嚥下状態や嗜好に配慮し、ゼリーを提供するなどの支援を通じて、穏やかな時間を過ごせるよう取り組んでいます。これまでに数名の看取りを実践しており、最期までその人らしく過ごすことのできるような支援を心がけています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	いつ発生しても対応できるように、会議で周知したり、研修で学んだりしている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害時の避難計画をたてており、避難訓練を通して身につけるようにし、また自治会長にも協力してもらえるように伝えている。	夜間を想定した防災訓練を利用者と共に実施しており、併設する小規模多機能型居宅介護事業所と合同で取り組んでいます。同じ建物内の企業やオーナーも訓練に参加しており、災害時に助け合える協力関係の構築に努めています。職員に対しては「感染症予防・まん延防止」や「業務継続計画（BCP）」に関する研修と訓練を行い、非常時においても適切な対応ができるよう理解を深めています。地域や他部署と連携しながら、安心・安全な生活を守るための備えを強化しています。	食料品等の備蓄を進めています。今後は備蓄リストを作成し、期限や個数を明確に管理する仕組みを整えることが望まれます。業務の中で無理なく継続できる確認方法を見出していくことが期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	どんな時でも、相手の人格を尊重し、プライバシーが保てるように声掛けをするように努めている。	個人情報やプライバシー保護に関する研修を実施し、利用者への敬意を大切にしたり関わりに努めています。入浴時の更衣介助などにおいては、周囲の視線を遮るなど他者の目に触れないよう配慮し、羞恥心に配慮した対応を心がけています。ホームページなどへの写真掲載については、契約時に家族などから承諾を得ており、個人のプライバシーを保護し、適切な運用に取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	コミュニケーションを取りつつ、自己決定ができるような声掛けをするように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人の気持ちを尊重し、なるべく自由に生活できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人だけでなくご家族にもいろいろな情報を得て、興味を持てるように努めている。一緒に買い物に行ったりする。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	それぞれできる事できない事があるので、その人に合ったこと（食材を切ったり、炒めたり、盛り付け、食器洗い、食器拭き）を支援できるようにしている。一人だけ朝食はパン食にしている。	食事については、専門業者の食材を活用して提供しています。職員が見守るなか、利用者が食材を切る、炒めるといった調理工程に加わるほか、盛りつけやテーブル拭き、食器拭きなどを共に行うことで、食事の時間を豊かにできるように取り組んでいます。誕生日の際には、ケーキを用意して本人の希望を確認し、寿司などの好みの献立を提供するなど、特別な日の喜びを共有できるような支援に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎日、摂取量と水分量を記録し、また定期的な血液検査の結果などから、医師から指示をもらうようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	それぞれできない部分を支援するようにしている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄パターンを把握し、なるべく、トイレで排泄ができるように排便コントロールができるように努めている。	利用者の排泄パターンを把握し、落ち着かない様子などのサインを捉えて声かけを行い、トイレでの排泄につなげています。継続的な支援により、おむつの使用からリハビリパンツとパッドの使用へと改善を図る利用者もいます。また、夜間の睡眠を妨げないように、個々の状況に合わせて吸収力の高いパッドに変更するなど、安眠と肌への負担軽減を両立できるよう取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	立ったり座ったりの動作や歩く距離を増やしたり、また水分量が不足してないか日々チェックし対応している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	なるべく本人が選択できるように配慮しつつ、またゆっくり入れるように環境を整える。	長湯の習慣など、入居前の生活習慣を尊重し、入浴を楽しめるよう心がけています。入浴に対して強い拒否がある利用者には、「体重を測る」といった別の目的での声かけを行うなど、誘い方を工夫しています。無理強いせず、本人の気持ちが向くのを気長に待つ姿勢を大切にしています。また、職員との会話を楽しみながら入浴できる環境を整え、リラックスして過ごせるようにしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	夜ぐっすり眠れるように、日中の臥床時間も考えて、また適度な活動と日光浴ができるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	常に医師に本人の情報を正しく伝えて必要な薬を処方してもらえるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	コミュニケーションを小まめに取って、聞き出した情報は小まめにケア記録に記録し、情報共有している。そこから会議等で提案し実行できるようにしている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	なるべく本人の希望がかなえられるようにご家族にも協力をもとめて実施できるように努めている。(郵便局やクリーニング、散歩等)	天候を見極めながら、近隣の神社や公園などへ散歩に出かけています。初詣や季節の花見などの行事を計画し、希望する利用者と共に外出する機会を設けています。また、本人の意向が叶うよう家族の協力を得て、外食や買い物、冠婚葬祭への参列といった個別性の高い外出も支援しています。住み慣れた地域とのつながりを保ち、豊かな生活を継続できるよう努めています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	状況に応じて本人の希望に添えるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人から要望があった場合は、本人の携帯電話で相手先にかけてたり、かかってきた場合は、話せるように支援している。手紙もやり取りができるように支援している。	/	
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節ごとに模様替えをしたり、音、光、もご入居者に配慮して環境を整えるようにしている。	居間は、落ち着いて過ごすことのできる空間となっています。視覚に障がいがある利用者や車いすでの通行に支障がないよう、テーブルなどの配置を工夫して安全な動線を確認しています。自身の居室が判別しにくい利用者に対しては、扉に大きな文字で名前を示すなどの配慮を行っています。また、季節行事の写真の掲示に加え、正月には華道の師範であった利用者に花を活けてもらうなど、四季の移ろいを感じられる環境づくりに取り組んでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	お互いの居室で話ができるように、また廊下の途中に椅子等を置いて気軽に話ができるようにしている。	/	
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入所時に今まで使い慣れたものを持ってきてもらうようにしている。なるべく同じ環境を作れるように努めている。	洗面所やエアコン、カーテン、照明器具、ベッドなどは事業所にて準備しています。入居の際には、住み慣れた環境を維持できるよう、馴染みのある品を持ち込むよう伝えていきます。実際に、多数の書籍やギター、譜面台、自作の絵画、テレビ、仏壇、写真などを持ち込む利用者も多く、それぞれの個性を反映する居心地のよい居室環境を維持できるようにしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	動線を確保して転倒リスクを下げるようにしたり、薬や危険物等は手に届かない所や鍵がかかるところにしまうようにしている。	/	

事業所名	天王町グループホームえん
ユニット名	5F

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	3, あまり増えていない
	4, 全くいない
66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念を掲示し、会議や研修や面談を通して共有し実践している		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	早朝の公園掃除や、防災訓練や運動会などにも参加している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	問い合わせや見学等で介護の相談を受けた際に、認知症についてなどを説明している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	今年自治会長や包括だけでなく、ご家族やご入居者、他施設の管理者等が参加して意見を頂き、改善できることはその都度対応している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	生活保護の方の生活支援面での相談を小まめに行いながら進めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	毎月のケアカンファレンスの中で身体拘束にならないか、また抜き打ちで防犯カメラを活用して確認している。また、研修を通して学んでいる		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	毎月のケアカンファレンスの中で高齢者虐待にならないか、また抜き打ちで防犯カメラを活用して確認している。また、研修を通して学んでいる		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	主に管理者は把握し必要がある場合は話し合いも行っているが、各職員までは理解に至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	見学時及び契約時に説明を行っており納得して頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	職員に意見・要望が伝えられた時は管理者およびCMに報告している。面会時のコミュニケーションを大切にし、意見を言いやすい関係づくりを意識している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	会議や定期的に面談を行い、意見を聞くようにしている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	評価する基準があり、給与算定される仕組みがる。向上心への評価もありやりがいにつながっている		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修の機会は設けているが、人手不足等もあり実際は一部の職員しかできていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	連絡会や運営推進会議にて同業者の情報共有を行っている		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用する前の情報収集や面談を密に行い、安心と信頼関係作りに努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	アセスメント等を行う際、本人の要望を聞いた後、家族の要望も聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	見学時に詳しく話を聴いてその方にとってどのサービスが最適化かをアドバイスしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	あくまで職員は入居者主体で共同生活をするうえで、できないことを支援し、助け合って生活できるように務めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族と一緒にここでのケアを支えている気持ちで相談援助を行っている		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	場所が変わっても、いつでも来てもらえるように、またいつでも連絡が取れるように努めている。 面会も受け入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	職員が間に入って、コミュニケーションが取れる環境（席の異動等）を作るようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	終了したから関係を断つのではなく、いつでも相談や支援ができるように努めている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメント時や、関わった際に何気ない言葉も記録に残すようにし、会議等で情報共有し、意向に添えるように検討する。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	散歩や入浴時や夜間など1対1になれるとき等にこれまでの暮らしを聞いたら記録し情報共有するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	アセスメントやモニタリング、また日々の様子を記録し皆で情報共有できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	アセスメントしてからケアプランを作成し本人や家族の同意を得てから実行し、モニタリング時に本人やご家族の意見を聞いてプランを作り直すようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	気づきや変化があったときはケア記録に書き、口頭での申し送りや、カンファレンス時に情報共有するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	一人で検討するのではなく、多職種からのアドバイスをもらったり他の職員の意見も参考にし、柔軟に取り組めるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	常に地域資源があるかどうかを頭にいれて、ニーズに合うか検討するようにしている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人とご家族には選択肢をあたえて、本人達に選んでもらえるようにしている。また、あまりいい関係が得られない場合は、すぐに変えられるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護ステーションには、一週間の様子を伝えると同時に、気になる部分は相談できるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、病院側と情報共有するようにしている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に話をしているが、またその時を迎えた時に医師と看護師、職員、本人、ご家族で今後の方針を検討するようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	いつ発生しても対応できるように、会議で周知したり、研修で学んだりしている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害時の避難計画をたてており、避難訓練を通して身につけるようにし、また自治会長にも協力してもらえるように伝えている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	どんな時でも、相手の人格を尊重し、プライバシーが保てるように声掛けをするように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	コミュニケーションを取りつつ、自己決定ができるような声掛けをするように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人の気持ちを尊重し、なるべく自由に生活できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人だけでなくご家族にもいろいろ情報を得て、興味が持てるように努めている。一緒に買い物に行ったりする。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	それぞれできる事できない事があるので、その人に合ったこと（食材を切ったり、炒めたり、盛り付け、食器洗い、食器拭き）を支援できるようにしている。一人だけ朝食はパン食にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎日、摂取量と水分量を記録し、また定期的な血液検査の結果などから、医師から指示をもらうようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	それぞれできない部分を支援するようにしている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄パターンを把握し、なるべく、トイレで排泄ができるように排便コントロールができるように努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	立ったり座ったりの動作や歩く距離を増やしたり、また水分量が不足してないか日々チェックし対応している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	なるべく本人が選択できるように配慮しつつ、またゆっくり入れるように環境を整える。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	夜ぐっすり眠れるように、日中の臥床時間も考えて、また適度な活動と日光浴ができるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	常に医師に本人の情報を正しく伝えて必要な薬を処方してもらえるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	コミュニケーションを小まめに取って、聞き出した情報は小まめにケア記録に記録し、情報共有している。そこから会議等で提案し実行できるようにしている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	なるべく本人の希望がかなえられるようにご家族にも協力をもとめて実施できるように努めている。(郵便局やクリーニング、散歩等)		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	状況に応じて本人の希望に添えるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人から要望があった場合は、本人の携帯電話で相手先にかけたり、かかってきた場合は、話せるように支援している。手紙もやり取りができるように支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節ごとに模様替えをしたり、音、光、もご入居者に配慮して環境を整えるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	お互いの居室で話ができるように、また廊下の途中に椅子等を置いて気軽に話ができるようにしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入所時に今まで使い慣れたものを持ってきてもらうようにしている。なるべく同じ環境を作れるように努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	動線を確保して転倒リスクを下げるようにしたり、薬や危険物等は手に届かない所や鍵がかかるところにしまうようにしている。		

2025年度

事業所名 天王町グループホームえん  
 作成日： 2026年 5月 18日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	職員は定着し始めており、新人職員特定技能の職員に対して、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を浸透させたい	GHの意義と事業所（法人）の理念を全職員が理解し把握をする	入社時での研修や事業所の研修等で伝えていく。また、特定技能の職員には個別でも伝えていけるように支援する。会議等でもGHの意義及び理念を伝えていく	1 2ヶ月
2	2	地域との関りが増えてきているが、まだまだ事業所を知らない方が多い。	地域の自治会や防災訓練、イベント等に積極的に参加し、また事業所にも地域の方や子供たちが遊びに来てもらえるようにする	地域との関係性を深めて交流が増えるようにする。また前もってイベント等の日程を年間計画に入れて、人員調整ができるようにしておく	1 2ヶ月
3	12 13 17 18	新しい職員や外国人技能実習生も入ってきており、できることは自分で行うことが、浸透されていない。	職員の8割が業務中心ではなく、ご入居者中心で動くようになる。	積極的にご入居者のできることをみつけて職員に周知し、自然とできることを自分で行ってもらえるように常に会議で話し合い浸透させていく。	1 2ヶ月